



そら・うみだより

~さくらだゆうえんち編~

第11号

令和6年2月7日
北区立さくらだこども園

子どもたちがワクワクしながら進めてきた遊園地ごっこの取り組み。1月の学年だよりでは、①学年みんなで相談、②グループで相談、③グループで作る、という様子をお伝えしました。今回は、その続きの様子をお伝えします。

④ 係を決めよう 「こういう係があるといいな」「みんなはどう？」

各グループで遊園地をするために必要な係を考えました。自分たちで遊ぶ中で、「動かす人は2人いた方がいいね」「小さい子が来たら教える人も必要だね」「怖がっていたら手をつないであげる人も必要かも」などと、必要な役割を予測しながらみんなで分担しました。係を分担する中で、友達の言葉に対して返事をしない姿が多く見られ、保育者は相手の言葉に返事することや、言ったことが相手に伝わっているのかを意識できるように言葉を掛けてきました。次第に、“みんなで決めるってこういうこと”ということが分かり、グループの仲間全員にきちんと確認することや、意識して仲間の話を聞く姿が増えてきています。

遊園地のオープンは、3日間でした。1日目は、前半と後半で店番と遊びに行く人に分かれて年長だけで遊びました。2日目は、ほし組とにじ組を招待しました。3日目は、はな組を招待し、もっと遊びたかったほし組とにじ組も遊びに来ました。

⑤ 振り返り 「今日はここが大変だったね」「明日はどうする？」

その日の遊園地が終わった後に、毎回振り返りの時間を設けました。うまくいったことや、うまくいかなかったことを出し合い、どのように変えると翌日のお客さんに喜んでもらえるかを考えました。

1日目の後には、「これじゃあ高さが高いから、階段をつくった方がよさそう」「年長さんなら分かるけど、ほし組さん、にじ組さんには分かりにくいかな?」「じゃあ、説明する人も必要だよ」と新たな道具や役割を加えたグループもあります。

2日目の後には、「明日、はな組さんが来るね。困ったときに自分で言えないかもしれないね」「じゃあ、困ってない?って聞いてあげよう」「はな組さんにも分かるように喋らないとね」と、年中児と年少児の違いも思い浮かべながら考える姿がありました。



発車します!
つかまっていますね。



チケットを出してね。
スタンプを押すよ。

さくらだゆうえんちは大盛況に終わり、運営した5歳児は、「疲れたけど楽しかった!」「お客さんがいっぱい来て嬉しかった」とお客さんに喜んでもらった満足感や仲間と取り組んだ充実感でいっぱいの様子でした。

3, 4歳児からは、「とっても楽しかった!!」という声とともに、困ったときに声を掛けてくれたり、教えてくれたりしてくれてうれしかったという声も挙がったそうです。



ちょっと怖いな...。

手をつないでいて
あげるよ。



こうやって遊ぶんだよ。

昨年の年長児が自分たちで考えて遊園地を作っていたことや、親切に教えてくれて、楽しく遊んだことが、子どもたちの中の記憶に強く残っていて、自分たちも遊園地を作ろうという思いにつながりました。計画、準備、運営、そして片付け...と、最初から最後まで、グループや学年みんなの力を合わせて取り組んださくらだゆうえんちです。「こうしたい!」という思いがあったからこそ、「どうしたらいいかな?」とたくさん考え、試したり、一人では難しいことも仲間と力や考えを合わせて頑張ろうとしたりする姿がたくさん見られました。